

せいきょう連ニュース

CO-OP 岡山県生活協同組合連合会 TEL : 086-230-1315 岡山県生協連 検索

会員生協トピックス

こくみん共済coop 岡山推進本部（岡山県労済生協）

「子ども防災体験会」に出展

こくみん共済coopは、「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」という理念にもとづき、積極的に地域社会に貢献する活動を展開しています。

旧旭竜幼稚園（岡山市中区）において、11月23日（木：祝）、NPO法人まんなか主催で「子ども防災体験会」が開催され、地域の子ども達約50名の参加がありました。NPO法人まんなかは、こくみん共済coopの2022年度地域貢献助成団体（※1）です。

今回の「子ども防災体験会」では、「自転車シミュレーター」・「煙体験ハウス」・「ストローホイッスル」・「サバイバル飯炊き」を出展しました。

参加者からは、「何も見えなくてどうしてよいか頭が真っ白になった」「空缶でこんなにおいしくご飯が炊けるなんてすごい！」などの感想が寄せられました。

（※1）「人と人とがささえあい、安心して暮らせる未来へ」をテーマとして、「防災・減災」「環境保全」「子どもの健全育成」に取り組む団体（NPO法人や市民団体など）の活動を支援するものです。



「NPO法人まんなか」の皆さん



煙体験ハウスに挑戦中！

自転車シミュレーターで
運転中！サバイバル飯炊き、
通称「サバメシ」実施中

おかやまコープ「琴浦西エリア防災学習会」

10月25日（水）、ハローズ児島店にて、生活協同組合おかやまコープ「琴浦西エリア防災学習会」がおこなわれ、「防災クイズを含めた学習会（座学）」・「新聞紙スリッパ作りでガラス散乱体験」・「非常用持ち出し袋の確認」を実施しました。

新聞紙スリッパを作成し、水や携帯ラジオ、寝袋など16点が入った重さ約6kgの非常用持ち出し袋を背負い、ガラスの破片



非常用持ち出し袋

非常用持ち出し袋を
背負って歩く参加者

に見立てたアイスブロックの上を歩いていただきました。参加者からは、「非常用持ち出し袋が重く大変だった。日ごろから防災に対する意識づけが大事だと思った。」などの感想が寄せられました。

玉野市和田・御崎地区自主防災組織連合会
「日比小学校区避難訓練」

11月19日（日）、玉野市立玉野備南高等学校体育館にて、「災害VR体験」・「煙体験ハウス」・「アイスブロックによるガラス散乱体験と新聞スリッパ作り」を出展し、約200名の参加がありました。参加者からは、「災害のVRを見るのは初めてでしたが、本当に目の前で起きているみたいでした。夫婦で避難経路を見直さなければと思いました。」などの感想が寄せられました。



VR災害体験中



煙体験ハウス

今後も地域と連携した活動をとおして、地域社会に貢献していきます。

岡山県学校生協

ドライブレコーダーのデータを活用した 特別授業を開催しました

地域貢献への取り組みとして、東京海上日動火災保険のご協力をいただき、児童の交通安全教育に繋がるサポートメニュー「交通安全教室」を、10月3日（火）に矢掛町立川面小学校、10月23日（月）に備前市立三石小学校にて開催しました。

当日は、ドライブレコーダーのデータをもとに通学路上の危険個所の確認、クイズ形式による交通安全知識の習得サポート等を行いました。



三井造船生協

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ玉」オープン

11月1日（水）快晴の秋空の下、小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ玉」がオープンし、28名のご利用者様をお迎えしました。

この日の午後、三井生協家庭会 嘉陽初子会長ら4名の方による日本舞踊が披露され、オープン初日に華を添えていただきました。ご利用者様も大変喜ばれ、楽しい時間を過ごすことができました。

「ひなたぼっこ玉」は、住み慣れた自宅、地域を中心にいつまでも健康で元気に生活していただけるようお手伝いさせていただきます。退院後自宅復帰に向けて、「通い」「泊り」「訪問」を利用して退院前と同様に安心して自宅で住み続けられるように支援いたします。

安心してご利用いただける施設を目指し職員一同努めてまいります。



岡山医療生協

コープ西大寺診療所 30周年記念フェスティバル開催

11月11日（土）百花プラザ（岡山市東区）にて、コープ西大寺診療所30周年記念フェスティバルを開催し、561人の参加者で創立30周年をお祝いしました。当日は、地元の岡山学芸館高校や岡山大学の学生さんがフェスティバルを盛り上げてくれました。会場いっぱい参加者は演奏に落語に抽選会にと終始笑顔で楽しみました。西野所長が西大寺診療所の歴史を写真で振り返り、多くの組合員と職員に支えられてきたことを実感しました。



倉敷医療生協

4年ぶりに地域をあげて取り組んだ「ミニ健康展」

11月10日（金）に倉敷市立南浦（なんぼ）小学校体育館で、コロナ禍で4年間開催できなかった「ミニ健康展」を開催しました。「ミニ健康展」は、倉敷医療生協南浦支部と健康事業部、玉島協同病院・水島協同病院が、倉敷市玉島南高齢者支援センターや倉敷市社協、地域の様々な団体と協働して取り組みました。

開催にあたり、事前に小地域ケア会議で相談を重ね、それぞれの団体が内容を調整したり、当日の役割分担を確認したりと、一体感のある取り組みとなりました。

医療生協支部組合員は健康チェック、医師や看護師・医療ソーシャルワーカーは専門的な相談やミニ講話、事務系の職員は大腸がんキットの配布などをおこないました。

4年ぶりの「ミニ健康展」の相談コーナーには、同じ会場で行われていたレントゲン車の検診に訪れていた80人近い地域住民が次々と訪れ、時間いっぱい相談が続きました。



住民の相談を受ける
二神克士医師(写真左端)と臼池倫太郎医師(左より2人目)

津山医療生協

ヘルスチャレンジ応援企画として 「ノルディックウォーキング」を開催



津山医療生協では昨年引き続き、ヘルスチャレンジ応援企画を開催しました。

今回パンフレットで大きく取り上げた運動コースとして、ノルディックウォーキングを2回行い、3kmコースを約20名で歩きました。参加者の中には90歳を超える方もおり、1kmコースも予定していましたが、全員3kmコースを歩き切りました。また、食のコースとして、おかやまコープの「たべるたいせつ応援隊」の方に来ていただき、共食と食事のバランスについて学びました。歌と体操も交えながら楽しく学ぶことができました。



おかやまコープ

県内119ヵ所の「子ども食堂」などに食品を贈呈

おかやまコープは、各市町村の社会福祉協議会やNPO法人など15団体を通じて、県内119ヵ所の「子ども食堂」などに、県産こしひかりやキャノーラ油などのコープ商品を贈呈しました。この取り組みは前年に続いて2回目となります。

今年度は、コロナ禍を経て新設や再開された「子ども食堂」や、子どもやその家族の「居場所づくり」など前年から42ヵ所お届け先を広げ、子ども食堂などを支えるスタッフへの組合員から心を込めた応援メッセージも一緒にお届けしました。

お届けする食品は、組合員が「おかやま育ち」商品1点購入につき0.2円が積み立てられる「コープ地域づくり協働基金」を活用しました。



瀬戸内市社会福祉協議会での贈呈式(11月30日)

岡山大学生協

2024年度新入生向けのサポートを開始 ～受験生相談・道案内・保護者説明会～

岡山大学では12月初旬に推薦入試が行われました。

岡山大学生協学生委員会では、受験の前日から当日にかけて、岡山駅と大学構内で『受験生相談・道案内』を行ないました。多くの方が訪れ、大学への行き方を確認したり、受験時の心構えなどを先輩学生たちに質問したりと、受験生の不安を解消しました。



受験当日は、岡山駅付近で『受験時保護者説明会』も開催しました。

受験時にお部屋を探される方が多くなり、大学周辺のひとり暮らし事情や、岡山大学での生活について、学生委員会の先輩たちが説明をしました。説明会には113組の保護者の皆様にご参加いただきました。

グリーンコープ生協おかやま

カカオ豆からチョコレートを作ろう

焙煎したカカオの皮をむき、すり鉢で時間をかけて滑らかにしていきます。手間はかかりますが完成したチョコレートは美味しい！の一言。

東ティモールコーヒーを淹れて、残りのチョコペーストをグリーンコープの組合員が2年の歳月をかけて検討・開発したお米100%の「う米パン（うまいパン）」や、規格外で廃棄される予定だったリジェクトバナナにつけていただきました。

チョコレートの作り方だけでなく、海を越えた産直『民衆交易』のことも学べる、とても豊かな時間となりました。



「環境過敏症についての学習会」を開催しました

講師をお招きし、化学物質や電磁波などを原因とする環境過敏症について学びました。アレルギーと密接な関係があると言われていますが、まだ科学的に不明な点も多いそうです。花粉症のように一度発症すると完治が難しいため、発症を予防する生活を心がけることが大切。農薬や添加物を極力減らして作られた食べもの、合成洗剤ではなくせっけんを使うことが環境過敏症の予防につながるということがわかりました。特に子どもは自分で生活環境を整えることができないので、大人が気を配らなければと改めて思いました。



就実生協

「新学期頑張ろう会」を開催

2024年度新入生を迎えるためのミーティング『新学期頑張ろう会』を、学生委員・職員が一緒になって合計30名で行いました。

新学期の取り組みに係る意義や生協について、また商品やサービスの理解を深めながら「どうすれば加入につながるのか」、「生協を利用していただけるのか」などを話し合いました。



新入生に「充実した大学生活を送って欲しい」、「就実に入学してよかったと思ってほしい」そんな思いで、12月から始まる各種イベントや対応に向けて準備を進めています。

県内友誼団体とともに

県生協連では県内の協同組合間の連携を図る「岡山県協同組合連絡協議会」、消費者団体の連帯を進める「岡山県消費者団体連絡協議会」の会員として、それぞれの構成団体と協力し、さまざまな活動を進めています。

岡山県協同組合連絡協議会

おかやまコープ「コープフェスタ」に出展

9月23日（土：祝）に4年ぶりに開催されたおかやまコープ「コープフェスタ2023」に県生協連、県JA中央会、県森林組合、県漁連で共同出展、県内のさまざまな協同組合の存在をアピールしました。それぞれのブースで子どもたちが参加できる企画を用意し、多くの子どもたちが訪れ、楽しみながら学習しました。



◀ 県生協連
「SDGs 輪投げ」でSDGsをアピール。大人の方も童心に返って楽しんでいました。



◀ 県JA中央会
クイズやぬり絵で日本の農業や農協のこを知りきつかけになりました。



▶ 県森林組合
ヒノキ加工品の販売やヒノキチップの詰め放題など木の香り満載のブースでした。



▶ 県漁連
瀬戸内海の生きた魚に触れる体験に子どもたちは、初めは恐る恐る、のち楽しい様子でした。

岡山県消費者団体連絡協議会

第36回岡山県消費者大会開催



10月31日（火）、第36回岡山県消費者大会がオルガホール、会員団体サテライト会場、YouTubeライブ視聴で開催され、15団体、計100人余りが参加しました。



記念講演「今の世の中のおかしなこと……、憲法の視点から見ると……—日本国憲法こそ希望—」では、八王子合同法律事務所弁護士 白神優理子さんが講演、まず先の大戦の悲惨な実態に触れました。その戦争を「徹底的に」否定し、人間の命・尊厳に最高の価値を置いたのが日本国憲法であり、その意味で、9条だけでなく13条「生命・自由・幸福追求の権利」がその根幹の条項であることなど、日本国憲法は平和で人権が生かされたあるべき国の姿を示したものであることを、熱意を込めて話されました。参加者からは「テンポ良く聞き取りやすくわかりやすい言葉でお話くださりあ

りがたかった、憲法の大切さがよく分かった」など好評でした。

団体活動報告では、JA岡山県女性組織協議会、生活協同組合おかやまコープ、岡山県母親連絡会から活動報告も行われました。



JA 女性協
河内さん



おかやまコープ
萩原さん



母親連絡会
林さん、中島さん、竹内さん

副知事との懇談、県行政との定期懇談会を開催

県生協連では、生協と行政の関係づくり、相互理解の促進に向けて、年1回、副知事との懇談、県行政との懇談会を開催しています。副知事、県民生活部くらし安全安心課ともに昨年から顔触れが変わり、改めて生協の取り組みや地域で果たす役割を伝え、率直な意見交換をし、連携した取り組みを一緒に考える機会となりました。

岡山県副知事との懇談

10月17日（火）
県庁特別会議室にて

岡山県から上坊勝則副知事、県民生活部くらし安全安心課から宮原課長、中本総括副参事、上杉主事に出席いただき、県生協連から、平田会長、福井副会長、田中副会長、安井副会長、大同常務、和泉理事、市川理事が出席し懇談しました。

生協からは、8月の生協・行政合同会議での副知事の冒頭あいさつのお礼、生協の社会的取り組みを報告しました。副知事からはコロナ禍での医療生協の対応や地域生協による安否確認への評価をいただきました。取り組みの具体例などを交流することで副知事には生協の理解をより深めていただくことができました。今後ともさまざまな連携を追求するとともに、情報交換をしっかりとっていくこととしました。



上坊副知事(右から3人目)と県連出席者

くらし安全安心課との定期懇談会

10月17日（火）
日本赤十字社岡山県支部 5階会議室にて

県民生活部くらし安全安心課 宮原課長、中本総括副参事、上杉主事に出席いただき、県生協連から理事7名、岡山県消費生活懇談会委員1名が出席し、定期懇談を行いました。

くらし安全安心課からは「第4次岡山県消費生活基本計画」の到達点の報告、生協からは豊かな消費生活へ向けての取り組みの報告をもとに意見交換が行われました。消費者被害防止への若い人へ向けた啓発では、大学生協での取り組み報告や動画コンテンツ、SNSなどのデジタル媒体の活用について、高齢者への対策では、孤立化を防ぎ、地域でのつながりづくり、生協の事業を通じた見守りなどが大切であることなど意見交換を行いました。



生協は日ごろからエシカル消費など意識的に取り組んでいること、組合員の意見を聞く場が多くあることなどから、県行政としても、そのような場に足を運んだり、今回のような生の意見を聞いたりすることで、今後の政策づくりに生かしていただくことを要望しました。

県生協連、4年ぶりの県外研修

11月23日（木：祝）～24日（金）、コロナで3年間中止をしていた岡山県生協連の県外訪問研修が行われ、6会員生協の幹部職員と事務局計16名が参加。愛知県の「南医療生協」と三重県の「桑名福祉ヴィレッジ」を中心に、生協が地域との連携を進める上で大切な視点を実地で学びました。

南医療生協では、組合員理事の杉浦直美常務理事より組合員主体という基本姿勢と組合員の声に基づいた病院の構造、班活動や学習活動の説明を受け、続けて隣接の豊明市に移動。組合員が運営する地域の居場所「いっぷく」、市と3つの協同組合（南医療生協、JAあいち尾東、コープあいち）で運営される助け合いの仕組み「おたがいさまセンター『ちやっと』」の取り組みを学習しました。



おたがいさまの家「いっぷく」



南医療生協で説明を受ける参加者

2日目は三重県桑名市に2022年に開設された「桑名福祉ヴィレッジ」を視察しました。ここは桑名市社協が中心になり7つの福祉機能を一か所に集めた「多世代共生」をめざした施設です。その中には日常のちょっとした買い物ができる「らいむショップ」もあり、その商品供給をコープみえが行っています。全体説明の後、各施設毎に視察、最後に「らいむショップ」で視察を行いました。



保育園、養護老人ホーム、母子生活支援施設、児童発達支援センター、生活介護事業所、居宅介護支援や相談支援機能に公園も併設。こどもや高齢者、障がい者など、分野を超えて利用ができます。



「らいむショップ」で視察と買い物

岡山県生協連 平田昌三会長が 厚生労働大臣表彰を受賞

10月23日（月）、消費生活協同組合等に対する厚生労働大臣表彰の表彰式が行われました。この表彰は、昭和23(1948)年に制定された消費生活協同組合法を記念して5年ごとに行われるもので、健全な事業運営を行い、他の模範と認められる組合・連合会、組合役員に対し、その功績をたたえとともに、併せて組合の健全な発展に寄与することを目的として実施されています。



今回は、消費生活協同組合法制定75周年を記念して、31の組合・連合会と29名の役員が表彰されました。岡山県からは、役員として岡山県生協連の会長でおかやまコープの前理事長の平田 昌三氏が表彰されました。

2023年度組合員活動交流集会のご案内

《全体テーマ》

ささえあいを考える

社会保障の基本を学び、会員生協の取り組みに学びます。

日時 **2月20日(火) 10時～12時**

会場 オルガホール(岡山市北区)、
オンライン視聴

基調講演

「あらためて学ぶ
『社会保障』とは？」

【講師】 島根大学法文学部
宮本 恭子 教授



応募締め切り **1月26日(金)**

詳しくは、各生協へ。

お申し込みはこちら→

